

呼吸器感染症の病態と治療に関する研究

Pathophysiology and therapy for pulmonary infectious diseases

呼吸器領域の慢性炎症性疾患には様々の表現型がある。COPD・喘息・間質性肺炎など、難治性呼吸器疾患の多くは慢性炎症性疾患である。それぞれが、病態特有の遺伝的素因と発症機序を有していると考えられる。さらに COPD・喘息・間質性肺炎という括りの中でも、様々の表現型がある。この 20 年くらいの中に、これらの炎症性呼吸器疾患に対する理解が進んでいるのは確かである。臨床的に考えると、患者にとり最大の利益をもたらしたのは、喘息に対する吸入ステロイド治療である。

COPD と喘息には気道の慢性炎症であるという共通点はあるが、炎症の性質が異なるのは確かである。免疫学的に大きい括りで考えると、喘息は Th2 型アレルギー性炎症であり、COPD は Th1 型炎症であるともいえる。異なる遺伝的素因があり、喘息はその発症にアレルゲン（抗原）が関与し、COPD は喫煙が関与している場合が多い。しかし、アレルゲン・喫煙だけが外因ではなく、ウイルス感染なども関与している可能性が高い。

基礎病態の解明、治療は必要であるが、その病態を増悪させているのは多くの場合、細菌感染症、ウイルス感染症である。それら感染症の制御は 21 世紀の課題である。